

資料4

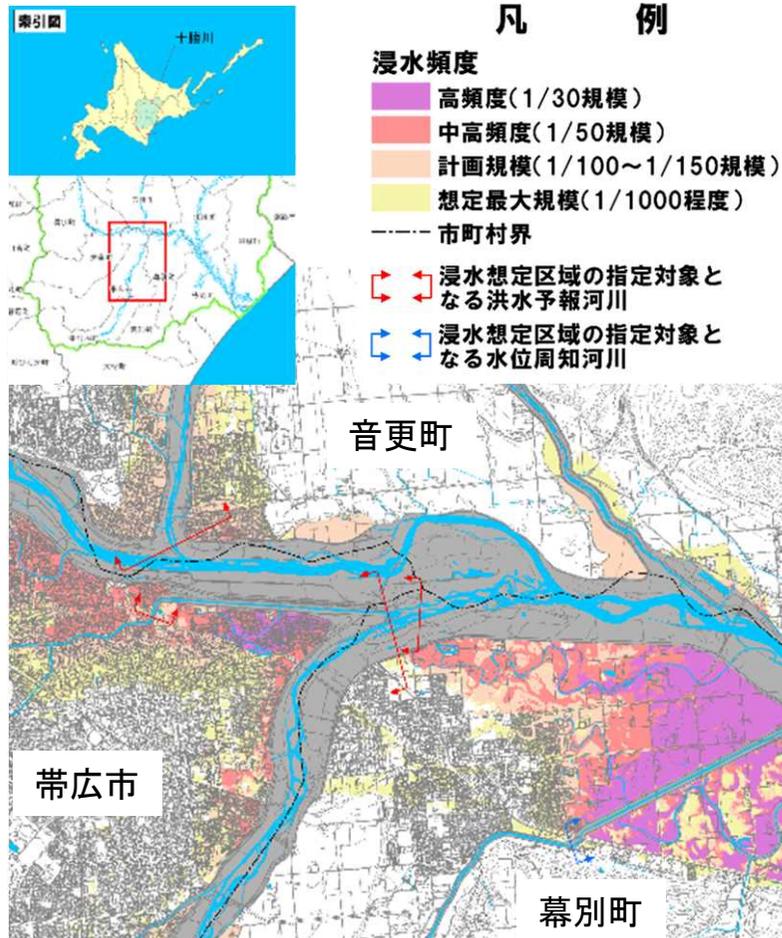
流域治水推進のための水災害リスク 情報の充実



流域治水推進のための水災害リスク情報の充実について

- 水災害リスク情報の更なるデータの充実とその利活用(まちづくりや住まい方の工夫、将来の宅地開発や企業の立地選択等)の推進に向け、想定最大規模降雨のみならず中高頻度の降雨(例えば10年や30年に一度程度発生する降雨)を想定した場合の水害リスク情報を重ね合わせ、浸水の頻度を示した水害リスクマップ(仮称)の作成等を進める。
- まちづくりとの連携や流域対策も含めた事業効果の見える化等、様々な活用目的ごとに合わせたアウトプットも必要と考えられるため、今後各分野で検討。

【水害リスクマップ(仮称)イメージ図】



【活用例(目的)】

- * まちづくり
 - 都市計画・立地適正化計画等(開発規制や居住誘導等)での活用、住まい方の工夫
- * 治水対策
 - 流域対策も含めた事業効果の見える化
- * 水害保険
 - 水害リスクに応じた保険料の設定
- * 避難行動
 - 浸水頻度を踏まえた避難路等の設定
- * 企業BCP
 - 浸水頻度、浸水深に応じた計画策定